

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105677
法人名	有限会社 司
事業所名	グループホーム つかさ
所在地	愛媛県松山市浅海原甲405番地
自己評価作成日	平成24年9月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年9月27日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームは海に面して建っており、窓からは広大な瀬戸内海やその島々を眺めることができます。利用者はその雄大な景色を眺めながら、ゆったりとした時間のなかで日々の暮らしを過ごされています。職員は利用者にも生活力を失わず、役割や生きがいを持ち、一人の人として自分らしく暮らしていただきたいと思います。そのために日々の家事活動や地域の奉仕活動を共にし、個々の行きたい所やしたいことを大切にし、一緒に行える支援に取り組んでいます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- 事業所は、「利用者の役割」を大切に考えておられ、利用者が「日常の中で自分からすすんで行ったこと」をキャッチして、利用者個々の役割作りにつなげ支援されている。
- 毎月、利用者一人ひとりの希望を昼食に採り入れ、「今日のメニューは、〇〇さんの希望のメニューです」と、昼食時に紹介してみなで食事を楽しまれている。月に18日間は「利用者の希望メニューの日」になっている。
- サービス向上委員会の「生活」担当職員は、今年度、「気持ちの良い入浴への改善」に取り組まれている。まずは、利用者やご家族にアンケート調査を実施され、「利用者には個々に好みのシャンプーや石鹸がある」ことがわかり、又、身体を洗う順番等、個々の習慣や希望を一覧表にして脱衣場に貼り、介助のガイドにされている。

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム つかさ

(ユニット名) あいユニット

記入者(管理者)

氏名 竹田 友和

評価完了日 24年 9月 10日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p><b>(自己評価)</b> 法人理念や運営理念をホーム内に掲示し、また理念を具体化した映像を作成し、職員間で勉強会を行った。理念に近づけるよう委員会を発足し、毎月見直しを行いながら計画的に実践と改善を行っている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 法人理念「心相喜努」をもとに、事業所では、昨年9月、新たに運営理念を「満足のいく生活をする為に、個人の自由と尊厳を守り、優しく暖かい心をもって接します」とつくられた。その際、管理者は「グループホームつかさの1日」のライドショーを作成されて、職員は画像をみながら利用者の生活の場面毎に理念に基づいたケアが実践できるよう学ばれた。又、「安全・生活・行事」等で構成する「サービス向上委員会」を立ち上げ、職員は年間計画を立て、毎月振り返りながら理念の実践につなげておられる。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p><b>(自己評価)</b> 地域の小学校との継続的な交流を計画し、校長先生に依頼して活動を続けている。それにより秋の焼き芋大会、慰問訪問、寄せ植えの寄贈など地域の子供たちがホームを訪れる機会は段々と増えてきている。7月の海岸清掃は悪天候の為中止となったが、ホームの夕涼み会には近隣の小学生が遊びに来てくださった。</p> <p><b>(外部評価)</b> 事業所のすぐ目の前は海岸で、海水浴に来られた地元の方には、駐車場や外にある水道をお貸しすることもある。地域の小学校が行う夏の海岸清掃や、海岸で行う焼き芋大会時は、職員や利用者も一緒に活動して交流を続けておられる。9月の小学校の運動会には、児童から利用者一人ひとり宛てに招待状が届き、10名ほどの利用者が見学に行かれた。秋祭りには、子ども獅子舞が来てくれる。このような交流の中で、顔見知りになった子ども達が、普段でも遊びに来てくれる。地域の夏祭りに出かけたり、8月には事業所でも「夕涼み会」を開催して、子ども達と地域の方も4～5名が来られ、楽しまれた。</p>	<p>3月の運営推進会議からは、小学校の先生が参加して下さっていたり、「夕涼み会」に初めて地域の方が来てくださる等、少しずつ地域の方とのつながりが広がって来ており、管理者は、地域とのつながりを「子供→親→地域の方へ広げていきたい」と考えておられる。さらには、「地域の方に相談に来てもらえるような事業所にしたい」と話しておられた。今後さらに、事業所の理解者や応援者を増やしていくような取り組みを続けていかれてほしい。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p><b>(自己評価)</b> 運営推進会議において、認知症に関わる勉強会を毎回行うようにし、地域の民生委員さんなどに伝えるようにしている。民生委員の方より、近隣の方のことで相談を受けるなど、認知症支援についての発信や相談所としての役割が発揮できつつあると思う。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議ではホームの様子を映像や写真で見ただき、その中でどのような支援が行われているかを具体的に話し合えるようにしている。前年度より近隣の小学校の先生も参加してくださり、地域や小学生達とどのように交流していくか相談させて頂いている。当ホームでの取組みと参加者のご家族の利用されているサービスとの比較などにて悩みや疑問への検討が行われている。	管理者は、今後、会議に地域の他事業所の方にも参加していただき、「災害時のネットワーク作り」にも取り組みたいと考えておられた。会議を活かしているいろいろな方との関係作りに取り組んでいかれてほしい。
			(外部評価) 会議は、民生委員や校区の小学校の先生、他事業所の管理者、ご家族2~3名が参加されている。会議では、事業所の取組みや行事の様子を写真で見ただきながら報告されており、意見をうかがっている。又、「災害対策」「外部評価」「避難訓練」は、毎年テーマに採り上げて、意見交換されている。参加者は「家族や外部者が事業所のサービスについて当たり前意見交換できる場がある」ことに驚かれ、会議に参加したことにより「利用する側からの意見の大切さ」を感じられたようだ。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 松山市介護保険課に運営推進会議の案内を出し、毎回出席して頂いている。また他にも毎月の地区連絡会議にも参加し交流をもつことで、日常的な相談を電話等でもできるような関係性の構築に努めている。	
			(外部評価) 「一人暮らしすることが難しくなっている地域の高齢者」について、地域包括支援センターから支援の協力依頼があり、市の担当の方とも相談しながら、入居につなげた事例がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施設の門扉は日中は常に開放し、花を飾るなどして開けた施設の雰囲気をつくろうと努力している。職員は身体拘束になる行為について学ぶ機会を持ち、施錠を含めて取り組みを行っている。しかし言葉での拘束を含め、お年寄りが本当に自由に暮らしていけるホームを目指し、継続して勉強会や日常の中で話し合いを行っていきたい。	
			(外部評価) 職員は、勉強会等で「身体拘束をしないケア」について学んでおられる。ベッドから転落する心配のある複数の利用者は、床に直接マットレスと布団を敷き、休まれている。「利用者にとってちょっと待ってと言わないケア」を目指して、管理者は「利用者の1日の行動を把握し、仕事の段取りができる職員を育てたい」と話しておられた。日々の散歩の際には、近所の方達とあいさつすることで顔見知りの方も増えており、利用者が一人で出かけて行かれた際には、知らせてくださったこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>職員は虐待防止法について勉強会にて学び、虐待の防止に取り組んでいる。しかし、利用者の気持ちや要望を満たし、我慢したりすることのない生活を送るために、繰り返し勉強の機会をつくるようにしたい。</p>	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>管理者や一部の職員は制度に付いて理解しているが、全員ではない。今後勉強会などを通じて全職員が理解し、各職員が担当の利用者に制度の必要性を感じたときに、関係者と協議できるように取り組みたい。</p>	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<p>(自己評価)</p> <p>契約の際は見学に来て頂いたり、訪問する等して管理者が利用者、家族と十分に協議し、不安や疑問点を解消できるよう話し合いを行っている。また、家族会や介護計画作成会議の時などにも話ができるよう努め、利用者の状態変化があった時には、管理者と臨時的介護計画会議を持ち、今後の対応について話し合うようにしている。</p>	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者には日々の言葉を記録に残すようにし、またアセスメントの際には個別に要望を聴き取りできるようにしている。家族は家族会や介護計画作成会議時、面会時、運営推進会議等に話す機会を設け、また玄関に意見箱を設置し、それらを検討し運営に反映させている。また家族会や運営推進会議に参加されていないご家族様には議事録を送付し、内容について知っていただくように取り組んでいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎月のご家族への送付書類とともに、利用者個々の担当職員が書いた利用者の様子の手紙を同封されている。季刊誌「つかさ便り」では、事業所の取り組みや勉強会の内容、新人職員の紹介等、写真にコメントを添えて報告されている。「クリスマス会」「夕涼み会」等の行事の時は、ご家族にも案内を出し参加を呼びかけておられ、行事前には「家族会」を開催されている。運営推進会議で、今年度の事業計画を説明された際には、ご家族から「地域の方々を呼ぶ行事計画はないのですか」と質問があり、管理者は夕涼み会に地域の方をお誘いすること等を説明された。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>管理者は毎日の申し送りで日々の悩みを聞いたり、日常の中で職員個々と話をし、意見や提案を聴き、代表者と会議して運営に反映させるようにしている。また、毎月の職員会議には代表も参加し、各業務毎の担当者と意見交換を行い、よりよい運営がなされるよう協議を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>管理者は「職員会議時に、意見を出せない職員もいる」と感じておられ、日々のケアの中や申し送り時にも、職員が意見や気付きを出せるよう働きかけておられる。「サービス向上委員会」の各担当者は、毎月パーセントで達成率を示し、さらなる取り組みに努力されている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>事業所で独自のキャリアパス制度を導入し、職員が目標を持って働いたり、スキルアップに取り組めるようにしている。さらに代表者は毎月の職員会議に参加したり、管理者と運営会議を行うことで、職員のやりたいことが実現できるようにしている。</p>	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>管理者は毎月勉強会を行い、新たな知識や技術を学ぶ機会を設けている。また、日常や各担当の業務の状況や悩みを聞く中でアドバイスをし、気づける力を育むようにしている。外部の研修にも年1回の参加を呼びかけ、出勤として参加できるように取り組んでいる。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>代表者は積極的に他事業所との交流を進め、管理者も毎月の地区の調整会議に出席して交流を持てるように取り組んでいる。今後地域の同業者との交流をさらに深め、ネットワークづくりや相互訪問が行えるように取り組みたい。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>サービスを利用する前に管理者が訪問して、本人の思いを聞く機会を設けたり、見学に来ていただいて他利用者とは過ごす時間を持つようにしている。また入所時には担当職員を決め、本人の思いや要望を聴くようにすることで安心していただけるよう取り組んでいる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス相談時、見学時、家族宅への訪問相談時に、家族と多く話し合う機会を持てるように取り組んでいる。その際に不安なことや要望を出来るだけ多く聞くことができるよう取り組んでいる。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 管理者は利用相談を受けた際に、御本人の状態や家族の状況、それぞれの思いを聞くように心掛けており、状況に合わせた支援を受けることができるよう相談・助言を行っている。ケースによっては地域包括支援センターと協力し、相談支援を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は利用者の出来ること、出来ないことを把握するように努め、出来ることを一緒に行えるように取り組んでいる。今後さらに利用者の生活力の可能性を引き出し、生活の主体として力を発揮していただけるよう、個々の記録に想いや言葉を記入し、アセスメントには状態を詳しく記入するようにする。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員は面会時に近況の報告をしたり、毎月の行事、生活、受診の様子を手紙でお送りするなどして、本人の様子を知って頂けるよう取り組んでいる。さらに介護計画作成会議の際と一緒に本人を支援する方法を考えていただいている。今後も継続して本人の想いを支える仲間としての関係作りを家族と築いていけるよう、話し合う機会を多く持てるようにしていきたい。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの馴染みの場所や思い入れの地をご家族にお聞きし、自宅であったり、生活されていた地域に出掛けられるよう取り組んでいる。皆様それぞれ懐かしさを感じたり、地域で知り合いに出会ってお話するなどして、涙ながらに喜ばれる姿を見ることができている。 (外部評価) 面会に来られた方が帰られる際、職員は、利用者ご本人と一緒に玄関まで出て、見送りができるよう支援されている。お墓参りの希望には、職員が同行されたり、遠方の場合ご家族にご本人の思いを伝えるようにされている。ご本人の希望でご自宅周辺を散歩された時には、昔の知り合いに出会い、とても喜ばれたようなこともあった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食後には全員で一緒にお茶をするティータイムを設け、職員が仲介に入りながら一緒に会話をしたりする時間が持てている。それ以外でも一緒に調理や洗濯たみ等それぞれの役割を一緒に行うことでねぎらったり、助け合う関係を持つことが出来ている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ホームを退居され、他の事業所へ移られる時も、情報提供を行ったり、御家族にも相談対応出来る旨を説明している。また、介護支援専門員とも情報交換を行い、サービス終了後もフォローが行えるよう取組みを行っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 個別の記録に想いや言葉を記入する欄をつくり、日常の会話の中から出来るだけ本人の想いを聞き取るようにし、記録することで、職員間で把握できるように努めている。またアセスメントの更新時には、生活項目に分け、想いや希望を多く聴き取りできるようにアセスメントの書式を作成している。また利用者それぞれに希望の献立を聞くなど、想いの把握に努める事を大事にしている。 (外部評価) 昨年6月にアセスメントの様式を新しくされ、利用者一人ひとりの思いや意向について、生活の場面毎に具体的に把握することに力を入れて取り組まれている。アセスメントは、年1回取り直し、現状の把握に努めておられる。利用者個々に「行動見極め一覧表」をつくり、個々のできること・できないことをアセスメントして、介護計画や役割作りにつなげておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 介護計画作成時にご家族と一緒に検討し、色々なお話を聴ける機会が得られている。今後も本人やご家族との会話の中から必要な情報が得られるよう、個人記録を活用して記入し、情報共有できるように取り組みたい。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) アセスメントシートに日常の過ごし方を記入するようにし、本人の日々の過ごし方を把握している。心身の状態については、個人記録に詳細に記入するようにし、職員間で情報を共有しやすいようにしている。日々の中で変化があったことについては、日誌に記入し、対応方法を検討して記入できるようにすることで、情報の把握が出来るようにしている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 介護計画は毎月計画作成担当者と職員で話し合い、モニタリングを行っている。そのモニタリングをもとに職員間で話し合い、介護計画の原案を作成し、原案をもとにして御家族、計画作成担当者、担当職員で協議して介護計画を作成している。介護計画はその方の想いを聴き取り、生活に即した内容となるよう注意している。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、毎月モニタリングを行い、3カ月ごとに計画を見直しをされている。見直し時に行う「介護計画作成会議」は、ご家族に案内を出し、現在は6～7割のご家族が参加されており、利用者の暮らしやケアについて一緒に話し合われている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個々の記録には想いや言葉を記入する欄を設け、さらにケアプランの実践内容も記入するようにしており、結果や気づき、本人の想いを記入することで職員間で情報を共有できるようにしている。また日々の中で起こる課題に対しては、日誌に対応方法を記入する欄を設け、実施、評価を行えるようにしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の状況にあわせ、職員で通院の支援をしたり、希望の外出や外食を出来るようにしている。また本人や家族の要望なども取り入れながら、大切にしている場所や人に会いにいける支援を行い、ご本人、御家族ともに喜んでいただいている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 近隣の小学校と交流したり、近所の喫茶店の方や美容室の方など少しずつ地域の方々の協力が得られてきている。また近隣の社会福祉施設の配食サービスを行事の際に活用するなど、地域資源も増えてきている。今後さらに利用者が希望する生活を送ることができるよう、地域にある資源を把握し、関係性を深めていけるよう働きかけを行っていきたい。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人や御家族が希望している医療機関に受診できるよう、入居時に確認をとり、連携が取れるように働きかけている。医療機関によっては訪問診療に来ていただけるところもあり、複数の医療機関との関わりを持ちながら、利用者個々の主治医と関係を築きながら、適切で本人が安心できる医療を受けることが出来るよう支援を行っている。	
			(外部評価) 受診は、職員が付き添い、結果は必要に応じてご家族に電話で報告されている。特に変化がない場合は、毎月のお手紙で伝えておられる。歯科は、ご本人の状態によって、訪問診療を利用される方もおられる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 事業所に看護資格のある職員も配置されており、日々の健康管理や医療面での相談も行っている。また、利用者それぞれの主治医の医療機関の看護師とも気軽に相談ができ、状態変化時には相談や対応を依頼している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 利用者が病院に入院される場合には、入院時に本人に関する情報や支援方法に付いても医療機関に提供するようにし、入院中の本人のストレスや負担が軽減できるように取り組んでいる。また、主治医とも連携を図り、ホームで対応可能な段階を相談することで、早期の退院ができるよう支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族会にてターミナルについての説明会を行い、家族に事業所として出来ることを理解していただくようにしている。ターミナルが予測される段階の利用者に対しては、御家族と主治医、管理者が話し合うようにし、その結果を基にして職員会で話し合い、チームとしてどう支えていくか検討している。	
			(外部評価) 職員は、外部研修等で「ターミナルケア」について勉強をされている。運営推進会議時、市の担当者の方から、「看取りはどのようにお考えですか。」と、質問があった際、管理者は、「方針としては対応する旨でご家族にお話しております」と答えられた。現在は、ご家族の8割位の方が、「事業所で最期まで過ごす」ことを希望されている。ご本人の思いも機会を見つけて聞くようにされており、「最期は自宅の畳の上で」と思われている方が多いようだ。管理者は「ご家族の心情の変化に配慮し、継続した話し合いで柔軟な対応をしていきたい」と話しておられた。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<b>(自己評価)</b> 急変や事故発生に備えて、マニュアルを整備し、必要な機材の整備も進めている。また職員採用時及び年に1回は勉強会で学ぶ機会をつくっている。しかし、全ての職員が完全に出来るまでには至っていません。また不安を感じている職員もいるため、個別の研修も行いたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<b>(自己評価)</b> 災害時のマニュアルを整備し、毎月避難訓練を実施している。海岸に面している為、津波に対する避難訓練も取り入れ、地震、津波、火災の複合的な訓練を実施しており、大分スムーズな避難が行えるようになってきていると思われる。今後も継続してどのような状況でも訓練通りに避難出来るように励みたい。 <b>(外部評価)</b> 事業所は、災害時の避難マニュアルに沿って、毎月、地震・火事・津波を想定した避難訓練を行っておられ、毎回、職員で課題を話し合いながら訓練を重ねておられる。津波を想定した訓練時には、避難所になっている高台にある小学校まで車で避難された。1月の運営推進会議時には、消防署立ち会いの避難訓練をメンバーに見ていただき、民生委員の方から「いざという時は協力します」と言っていた。ヘルメットや簡易トイレ等の防災グッズを備え、食料や水も備蓄されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<b>(自己評価)</b> 居室に訪室する際はノックをしたり、年長者としての言葉遣いに注意する等、入社時や職員会議時などに都度点検、話し合いを行っている。またそれぞれの生活リズムや体調に合わせて支援するようにし、食事や入浴について無理強いすることがないように取り組んでいる。今後声の掛け方等で、職員一人ひとりの自覚を促せるように今後は映像を用いた勉強会も行いたい。 <b>(外部評価)</b> 管理者は、日頃から職員に「親しくなっても馴れ馴れしい言葉遣いをしない」ことや、「声の大きさに注意する」ように話しておられる。事業所は、「利用者の役割」を大切に考えておられ、利用者が「日常の中で自分からすすんで行ったこと」をキャッチして、利用者個々の役割作りにつなげ支援されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<b>(自己評価)</b> 日常の中で声掛けにも選択性を持たせることを大事にしている。その中でも希望の献立と一緒に本を見ながら決めたり、毎週選択できる喫茶の日を設けるなどの取り組みを行っている。毎月の外食は写真にして店を選ぶことが出来るようにして、話し合っ行って行き先を決めるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<b>(自己評価)</b> 時間で決めたりはせず、その時々の方の意志を尊重するようにし、食事の時間なども利用者によって時間をずらしたり、その時にしたいことを支援する等、一人一人のペースを大事にしている。しかし、全員の希望を実現するまでには至っておらず、一人一人の希望を確認しながら実現できるように取り組みたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<b>(自己評価)</b> 希望される方にはご家族と相談して一緒に服を買いに行ったり、散髪に出掛けたりしている。今年度は入浴改善の取り組みの一環として化粧水やシャンプーなどの希望を一人ずつ確認し、実施できるように取り組んでいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<b>(自己評価)</b> 利用者と一緒に買い物をしたり、それぞれの利用者の得意とする部分で野菜を切ってもらったり、味見してもらったり、片づけをしてもらっている。また、ホームの畑で栽培している野菜と一緒に収穫し、食事作りを行うことで楽しみを持っていただくようにもしている。献立は毎月利用者一人一人に希望の食べたいものを聞き、食べたいものが食べられるように取り組んでいる。 <b>(外部評価)</b> 毎月、利用者一人ひとりの希望を昼食に採り入れ、「今日のメニューは、〇〇さんの希望のメニューです」と、昼食時に紹介して、みなで食事を楽しんでいる。月に18日間は「利用者の希望メニューの日」になっている。毎食、汁物を付けて、水分補給や食べやすさにも配慮されている。週2日は、希望で朝食にパンを選ぶようになっている。利用者は、野菜の下ごしらえをされたり、調査訪問日の昼食後には、食器拭きをされたり、ご自分で下膳する利用者もみられた。誕生日は、職員と利用者が一緒に手作りしたケーキでお祝いされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<b>(自己評価)</b> 食事は主菜と副菜2品を毎食提供するようにし、1日30品目を目指して献立を立てている。利用者個別に食事量や水分量を記録するようにし、摂取量の把握に努めている。また利用者個々の状態に合わせてながら、食事の量を調整したり、食事を拒否する方に好きな物をお出ししてみたり、栄養を補助できるように工夫を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<b>(自己評価)</b> 毎食後一人一人の状態に応じて準備や声掛け、必要な方へは介助を行うようにし、就寝前には義歯の洗浄を行うようにしている。また歯磨きが分からなくなった方へ、職員と一緒にしながら模倣してもらえようとするなど、一人一人の状態に合わせてながら支援を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>個別の排泄の状況を記録することでトイレ誘導のタイミングを把握し、失敗しにくい時間帯は普通の下着を使用している。また夜間トイレに起きることが苦痛な方には御家族と相談し、ビックパットで交換回数を減らすなどして対応している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>現在、日中は利用者全員がトイレで排泄できるように支援されている。希望によっては、夜間も個々の排泄パターンをもとに、1～3回ほど声かけを行い、トイレに誘導しておられる。ゆっくり休みたい方にはパットのサイズも大きめを使って、安心して眠れるように支援されている。調査訪問時、男性利用者がご自分で尿器の始末をされていた。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>毎日午前中は乳製品や野菜ジュース等を摂取していただいたり、水分量を記録し、少ない場合には好みのものや、適時摂って頂けるよう声掛けを行い、便秘の予防を図っている。また便秘時には、すぐに薬を飲むのではなく、センナ茶を飲んで頂くなどして対応を行っている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者さん一人一人の希望をアンケートし、好みの時間帯やシャンプー、石鹸の好みを把握し、また入浴の習慣も希望をお聞きすることで、シャワーや掛け湯、浴槽に入る順番なども想いに沿って行えるように工夫している。入浴嫌いな糖尿病の利用者様にも、入浴してカロリーを消費していただいて、好きなアンパンを食べられるようにすることで、入浴への意識を持っていただいている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>サービス向上委員会の「生活」担当職員は、今年度、「気持ちの良い入浴への改善」に取り組まれている。まずは、利用者やご家族にアンケート調査を実施され、「利用者には個々に好みのシャンプーや石鹸がある」ことがわかり、又、身体を洗う順番等、個々の習慣や希望を一覧表にして脱衣場に貼り、介助のガイドにされている。個々に週3回の入浴を基本とされ、利用者によっては、起床時に入浴することを希望される方もあり、応じておられる。又、利用者の希望により同性介助で支援されている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>日中にそれぞれ役割活動を持って頂き、生活リズムが整うように努めている。その中で、利用者個々のその日の体調などに合わせて、自室やソファで休んで頂くようにしている。自室で休む際にも、個々の希望や状態に合わせて自室を整えたり、小まめに巡回する等して安心して休んで頂くようにしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全職員が薬の内容を把握できるよう、薬の説明書を個人ファイルに整理して保管している。また、薬の処方の変更された場合には申し送りやミーティングノートを活用し、全員が周知できるように取り組んでいる。薬変更後の利用者の変化については、管理者と職員で話し合い、状態変化を見逃さないようにし、適切に医療機関に連絡ができるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の中で聞かれる利用者さんの希望にはその都度対応できるようにし、買い物や散髪、嗜好品などの購入ができるようにしている。またそれぞれの状態や得意なことなどを考慮しながら役割をそれぞれ持っていただき、声掛けしてお願いしながら感謝の言葉を伝えるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎月地域のお店への外食や、近所の喫茶店にお茶を飲みに行くなど、楽しみある外出を行っている。日常的にも食材の買い物と一緒にいたり、海岸を散歩するなど、外出の機会を持つことを大切にしている。またご家族と協力して故郷への外出が行ったり、住み慣れた自宅に帰ってみるなど、個々の希望への支援を行っており、一人一人の想いや希望の場所への外出も順次行う予定である。	
			(外部評価) 毎月、外食を楽しみに出かけておられ、お寿司や和食、お好み焼き等の写真を見ながら、利用者が行き先を選べるよう支援されている。今夏は、かき氷を食べに近所の喫茶店によく出かけられたようだ。週3回、食材の買い出しに出かける際には、利用者も1名一緒に出かけられるよう支援されている。又、日常の中でも洗濯物の取り込みや畑の水やり等利用者の役割で外に出る機会を作っておられる。春は、お花見やツツジ観賞、秋には奥道後や北条の菊花展等、ドライブを楽しみながら出かけておられる。又、ご家族と協力しながら、ふるさとを訪ねたり、ご本人の希望する場所へ出かけてみるような支援にも取り組まれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族と相談してお金を所持されている利用者の方もおられるが全員ではない。所持されている方は嗜好品の購入をしたり、誕生日に指輪を買いに行かれた方もおられる。今後は所持されていない方にはお金の使う機会が持てるように、買い物時に支払をしていただくなどの取り組みを増やしたい。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 毎年年末には利用者一人一人が御家族に年賀状を送れるように、出来る人にはいっしょにハガキを購入したり、写真を載せるなど楽しみを持って行えるように支援し、ご家族様から大変喜んで頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p><b>(自己評価)</b> 共有空間には利用者が昔作っていたちぎり絵の作品を飾り、季節のイラストや飾り付けを行い、食堂には毎月の行事の写真を飾り、利用者同士で話を弾ませている。食堂の窓からは畑や花壇を見ることができ、季節を感じながらお話されることもある。またリビングや食堂の配置は、利用者同士が交流し易く、居心地良く過ごせるように心掛けている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 調査訪問日は、玄関横の花壇やプランターに、ペチュニアの花が彩りよく咲いていた。玄関やユニットの出入り口は、網戸にされており、階段や居間の窓も開放して、海からの風が心地よい空間になっていた。今年、管理者は、居間の海が見える窓際にソファークッションを配置されて、ご家族の来訪時等に、利用者と一緒に過ごすことができる場所を作られた。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p><b>(自己評価)</b> 廊下や玄関に椅子を置き、独りで座って落ち着かれたり、玄関の椅子に座って外を眺められるなど、利用者それぞれの過ごし方ができている。また、喫煙される方には、ベランダ口にテーブルを置き、ゆっくりと過ごしていただけるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p><b>(自己評価)</b> 馴染みのタンスや、昔作っていた作品、琴等を持ってきていただいたり、日常で制作した作品を飾る時などには、利用者に配置を聞くようにしている。新しくタンスが欲しいと希望された時には、一緒に広告を見たりして好みのものを選んで購入するなど、一緒に居室作りを行うことを大事にしている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 居室からは海岸が見え、夏には海水浴客に手を振ったりあいさつする利用者もいる。利用者が不在の時には、居室の窓を開けて換気を行い、布団は毎日、数名分を順番に干すようにされている。100歳前後の方が複数おられ、市長からいただいた、長寿の表彰状を飾っている居室もみられた。量の生活が習慣になっている利用者の部屋には、畳が敷き込まれていた。さらに、利用者一人ひとりの居心地のよい生活空間作りという観点からは、利用者によってシンプルさが目立つ居室もみられる。利用者の好みや心地の良さ等も探りながら、それぞれがくつろげる空間作りに工夫されてみてはどうだろうか。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p><b>(自己評価)</b> 廊下には自室が分かりにくい利用者の方の目印になるよう自室入り口に絵を飾ったり、自宅に居た頃と同じ目印を作るなどして、本人が確認しやすい工夫をしている。また、食事が自力で食べられるようその人にあった椅子に変えてみたりテーブルの高さを調整するなど、一人一人の状態に合わせた環境作りに取り組んでいる。</p>	